

# 親しみやすい店舗づくりで プロ御用達のブラシをもっと身近に

## 東京手植ブラシ 有限会社 宮川刷毛ブラシ製作所

大正10年、元浅草で創業した宮川刷毛ブラシ製作所。3代目の宮川久美子さんは、今では数少なくなった手植えによるブラシを作る職人だ。材料を厳選し、手間ひまをかけて作られる手植えブラシは、そのクオリティの高さと丈夫さ、使い心地の良さから、各業界のプロが愛用している。



プロの職人から指名買いされるハイクオリティな版画ブラシ

### 東京手植ブラシ 有限会社 宮川刷毛ブラシ製作所

職人: 宮川久美子

所在地: 東京都台東区元浅草2-10-14

T E L : 03-3844-5025 F A X : 03-3841-9343

E-mail : edo-hake@extra.ocn.ne.jp

U R L : <https://edo-hake-brush.com>

宮川さんには、手植えブラシを作るうえで心がけていることがある。それは「適材適所」だ。ヘアブラシやボディブラシ、靴や洋服のブラシなど用途が多岐にわたるブラシは、それぞれにふさわしい材料がある。また同じ材料でも植毛する密度や毛の長さによって使い心地が全く変わるため、材料の特性を常に考えながら作るという。たとえば、版画ブラシには、馬の尻尾に近い

「尾脇毛<sup>おわきげ</sup>」という希少な部位を使う。柔らかく弾力のあるこの馬毛の先端をさらに針のようにとがらせ、刷毛目が立たないようにする。また簡単に毛が抜けないように、高密度で植毛。各工程にこだわり抜いて作られるブラシは丈夫で使いやすく、版画職人からの信頼も厚い。

手植えブラシは大量生産品より値が張るが、大切に扱えば長持ちする。長く愛用してほしい



高い技術が必要とされる豚毛の植毛をする宮川さん



掃除に活用できるブラシを集めたコーナー



洗顔用フェイスブラシ、男女問わず需要がある



版画用ブラシ・刷毛だけでも 10種類以上



細くコシがある白豚は、洋服や靴用に最適



毛先を合わせて二つ折りにし植毛穴に押し込む手法は毛が抜けない



靴ブラシと洋服ブラシは宮川さんの自信作。特設コーナーの前で

という思いから、お客様には扱い方や手入れ方を丁寧に説明する。とくに水場で使われる刷毛やブラシは、手入れ次第で大きく寿命が変わる。「1年で毛が抜けたと言われると、説明不足だったかなと罪悪感にかられる」と宮川さん。ブラシへの愛情とお客様への心配りが伝わる。

確かな技術から生まれる高品質な商品は玄人からの評価が高いが、もっと一般のお客様にも

気軽に店に立ち寄ってほしいと、昨年度から東京都の職人ステップアップ事業を活用して店舗の改装に挑戦。店の前にA看板を出したり、お客様の動線を考えて、店の真ん中に特設コーナーの島を設けるなどの仕掛けを作っている。商品の名付けやレイアウトなどにも新たなアイデアが満載だ。お客様との会話がはずむような親しみやすいお店へ一歩一歩近づいている。